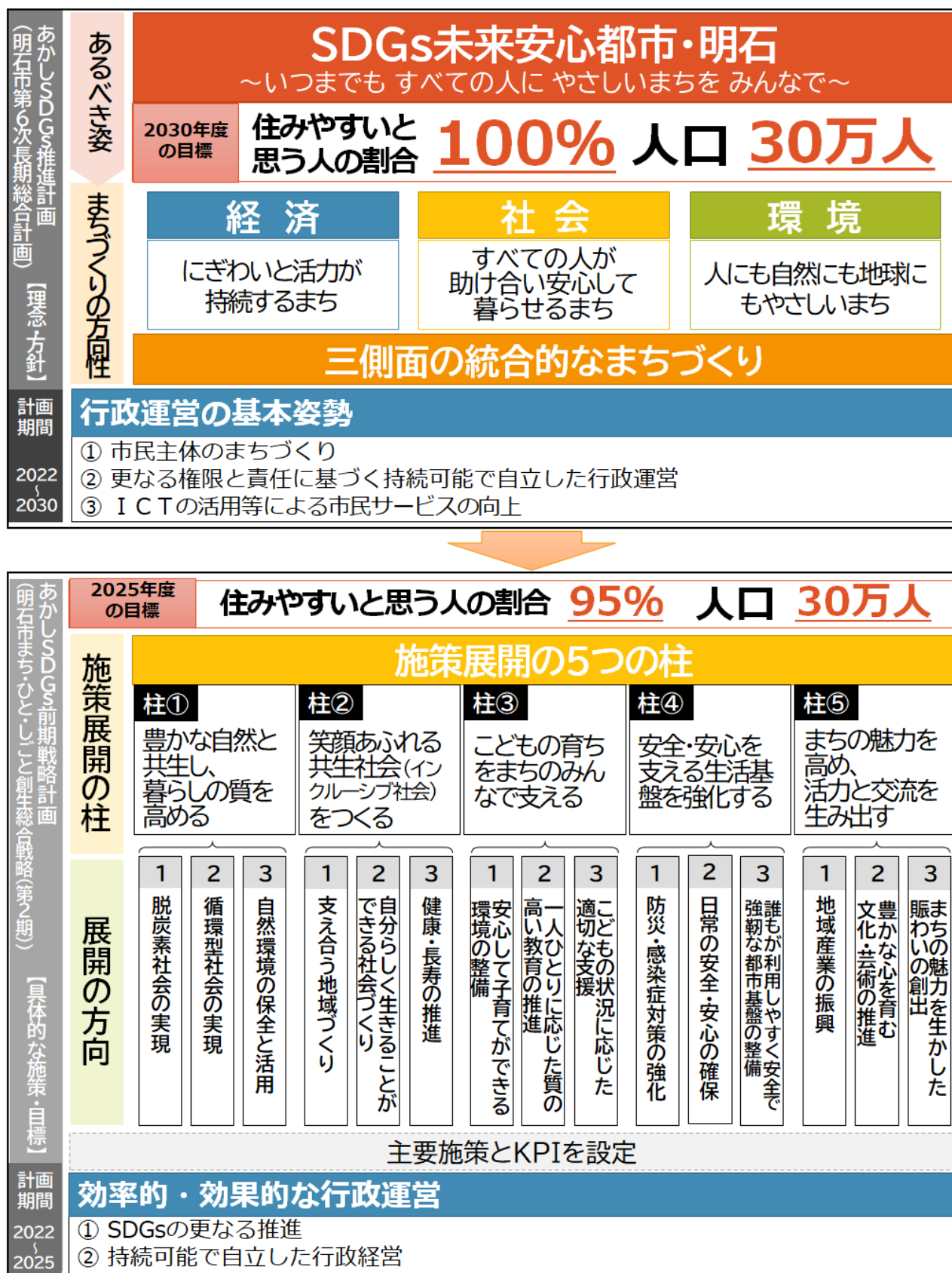


あかしSDGs 前期戦略計画の検証について

1 あかしSDGs 推計計画及びあかしSDGs 前期戦略計画の概要



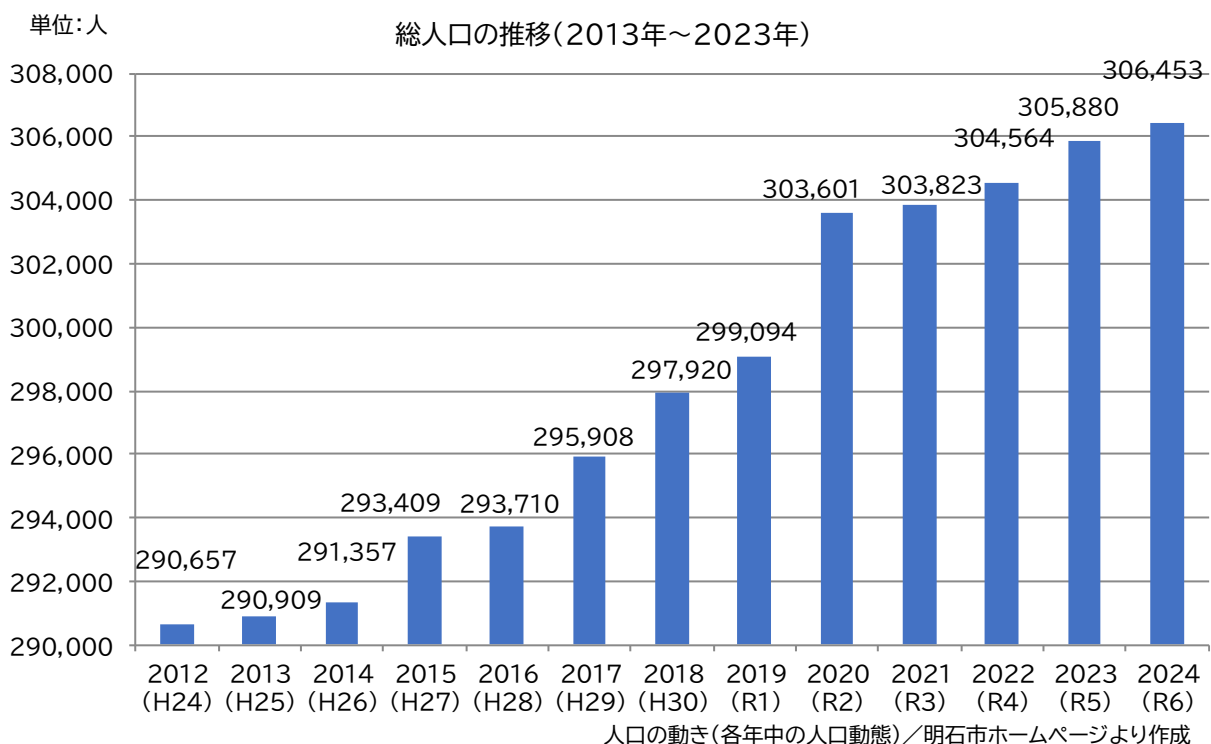
2 まちづくりの数値目標

(1) 総人口

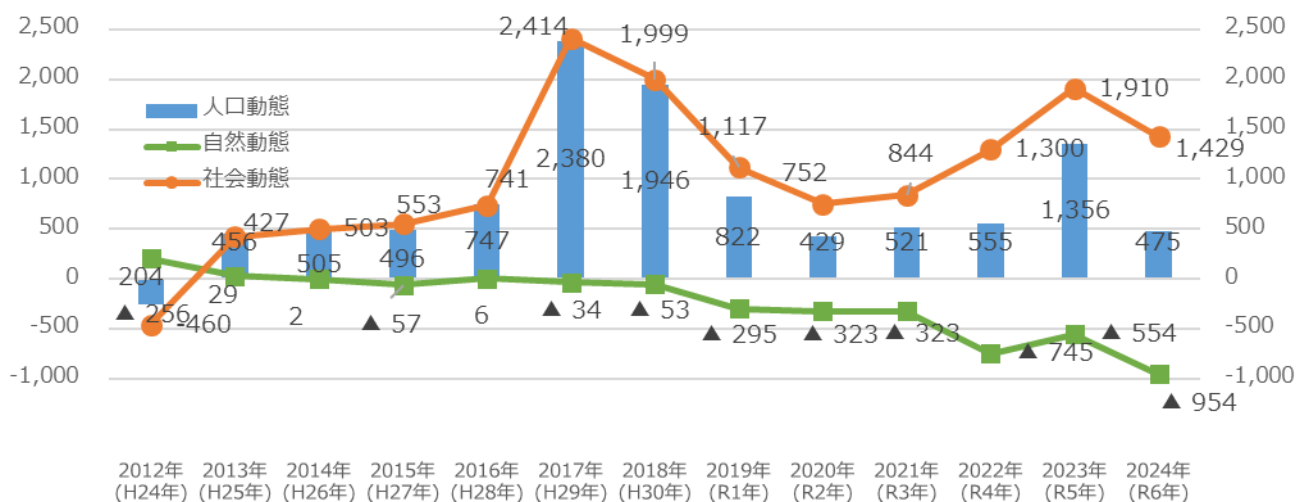
- ・総人口は、2013年から12年連続して増加しており、2024年10月1日現在で306,453人と目標人口(2030年：30万人)を大きく上回っています。

[数値目標：総人口]

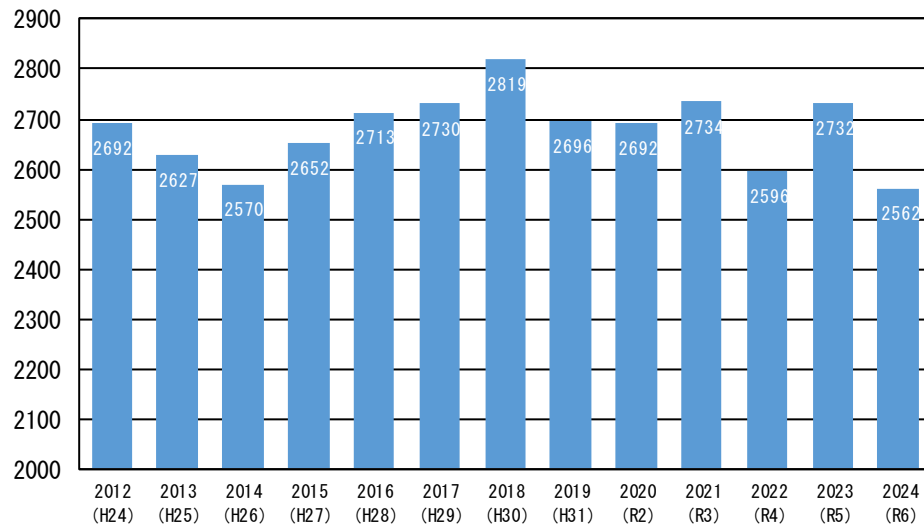
当初値 (2019年)	目標値 (2025年・2030年)
299,094人	300,000人の維持



【参考1】人口動態

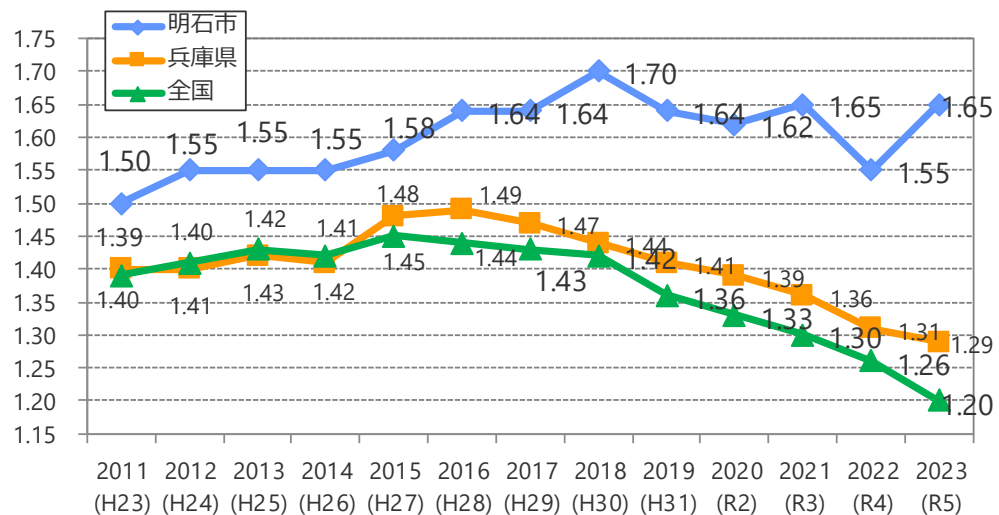


【参考 2】出生数



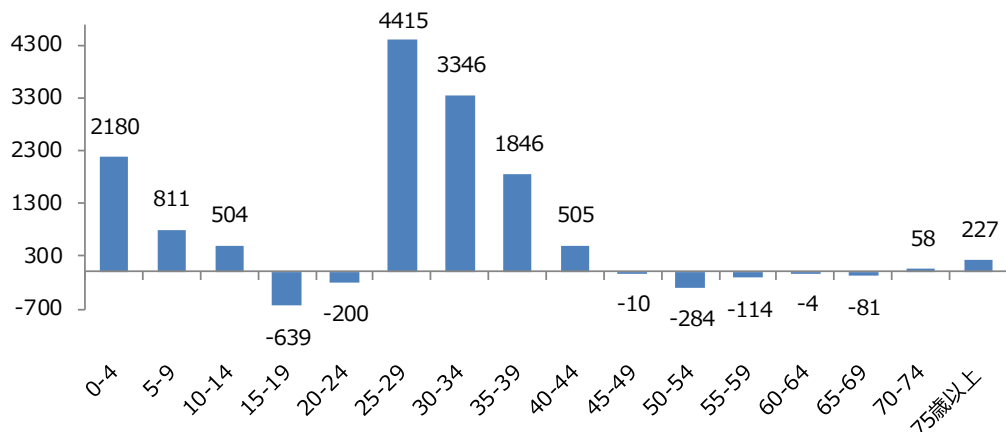
人口の動き(各年中の人口動態)／明石市ホームページより作成

【参考 3】合計特殊出生率



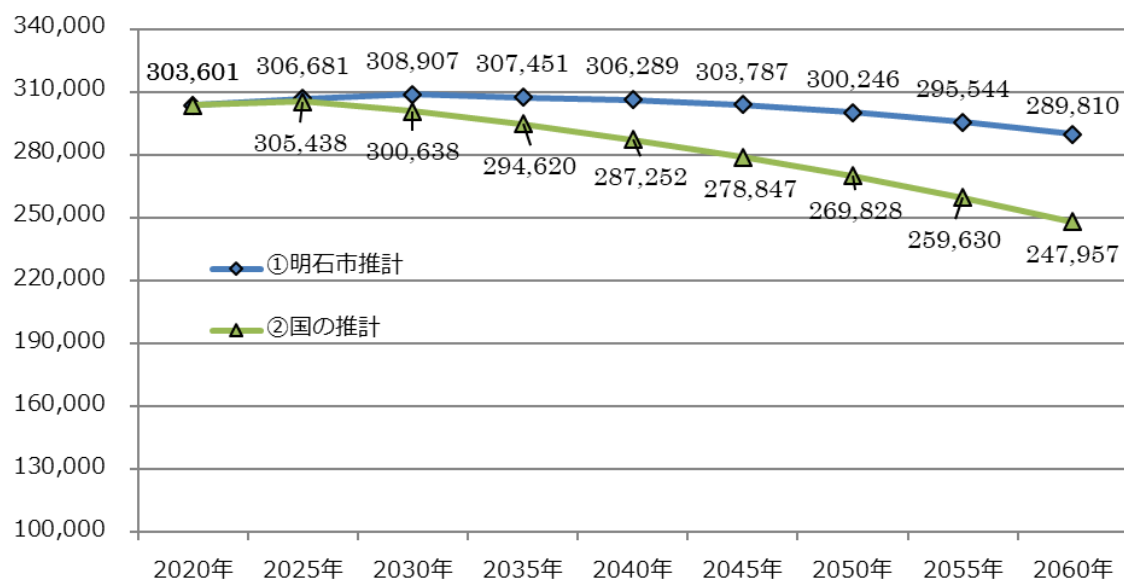
人口動態調査／厚生労働省ホームページ、
保健統計年報・合計特殊出生率、人口動態調査の数値／兵庫県ホームページなどをもとに市で算出

【参考 4】5 歳年齢別社会動態（2013 年～2024 年）



人口の動き(各年中の人口動態)／明石市ホームページより作成

【参考 5】将来人口推計（2025 推計）



（算出根拠）

*市推計は、2023 年 12 月に公表された国立社会保障・人口問題研究所による推計データを基に算出

*合計特殊出生率：2030 年に「1.8」、2040 年以降に「2.07」に設定

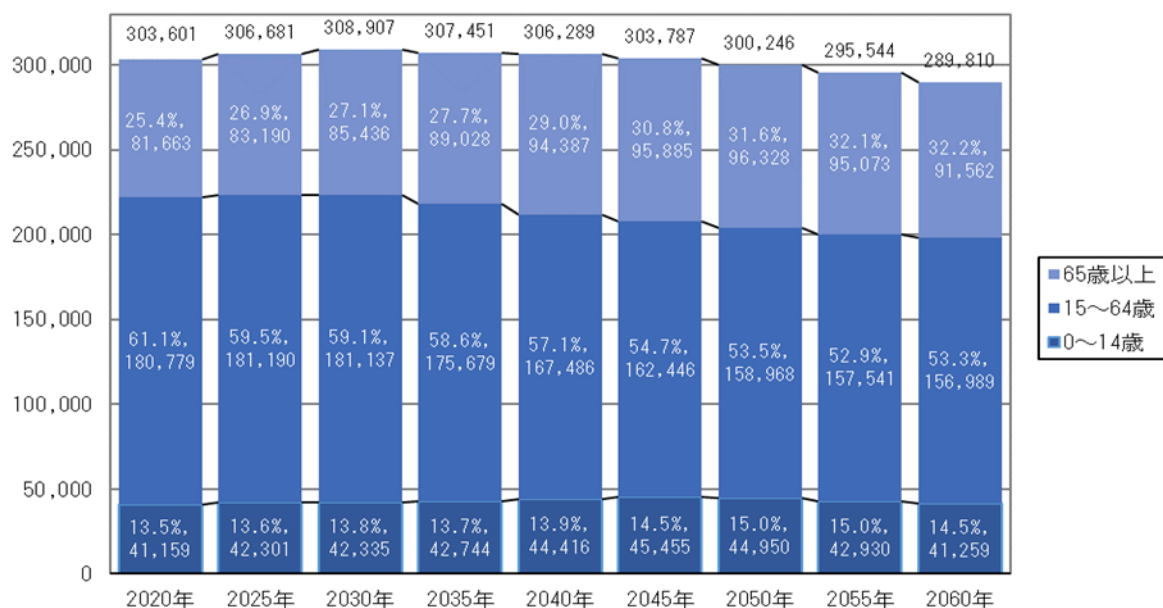
国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」と同じ）

*社会動態：①2025～2030 年の平均 約 1,000 人／年の転入超過

（参考：2013～2021 年 平均 1,038 人の転入超過）

②開発による増加

【参考 6】年齢 3 区分別の人口推計（2025 推計）

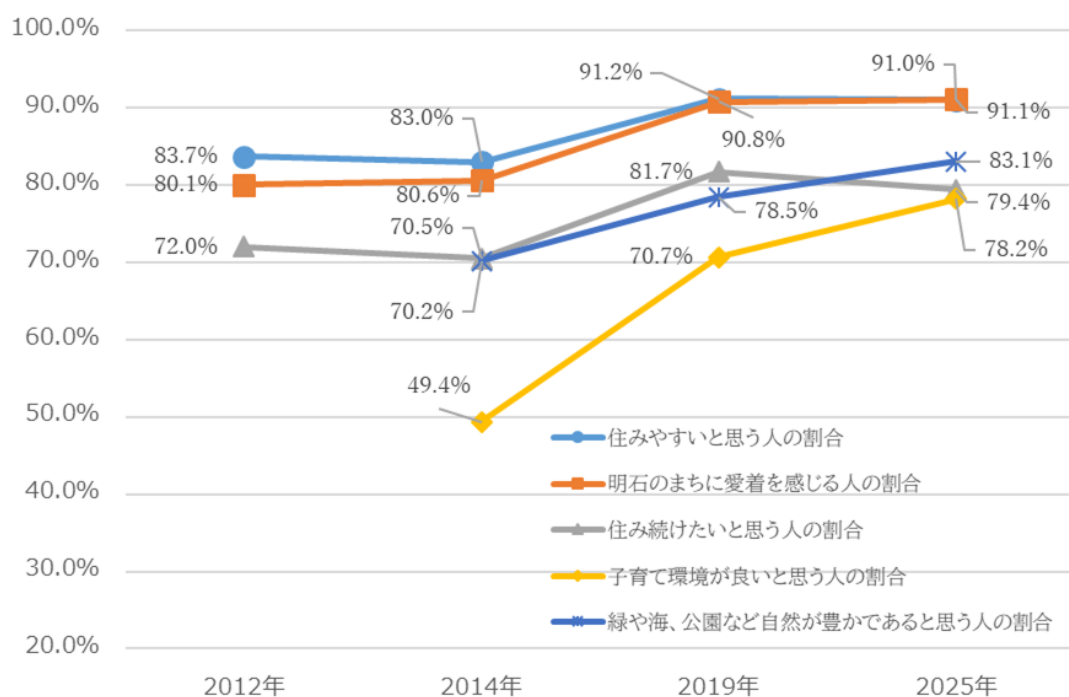


(2) まちの住みやすさや愛着度、定住意向についての市民意識

- ・住みやすいと思う人の割合は、今回の調査結果は91.0%で、当初値である前回値とほぼ同じとなりました。目標値は達成しませんでした、9割を超える市民の方が住みやすいと思っているという結果になりました。
- ・愛着を感じる人の割合や、住み続けたいと思う人の割合については、ほぼ横ばいで、子育て環境が良いと思う人の割合や、自然が豊かであると思う人の割合は、大きく増加しています。

[数値目標：住みやすいと思う人の割合]

当初値（2019年）	目標値（2025年）	目標値（2030年）
91.2%	95%	100%



項目	2012年	2014年	2019年	2025年
住みやすいと思う人の割合	83.7%	83.0%	91.2%	91.0%
明石のまちに愛着を感じる人の割合	80.1%	80.6%	90.8%	91.1%
住み続けたいと思う人の割合	72.0%	70.5%	81.7%	79.4%
子育て環境が良いと思う人の割合	—	49.4%	70.7%	78.2%
緑や海、公園など自然が豊かであると思う人の割合	—	70.2%	78.5%	83.1%

【まちづくり市民意識調査（その他概要）】

① お住まいの地域の生活環境について

- ・「お住まいの地域の生活環境についてどう感じているか」という問いに対して、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えた方の合計割合が、前回調査時と比べると、「海産物、野菜など食がおいしい」を除くすべての項目で増加し、特に「まちのイメージが良い」が 13 ポイント、「子育て環境が良い」が 7.6 ポイント高まっています。

順位	全市民対象（3,000人）
1 位	地震や台風、豪雨など自然災害が少ない(87.6%) [前回1位：86.2%]
2 位	日常の買い物が便利である(83.6%) [前回3位：80.7%]
3 位	緑や海、公園など自然が豊かである(83.1%) [前回4位：78.6%]
4 位	海産物、野菜など食がおいしい(80.5%) [前回2位：81.2%]
5 位	子育て環境が良い(78.3%) [前回6位：70.7%]
6 位	電車やバス、道路などの交通の利便性が高い(78.0%) [前回5位：75.8%]
7 位	まちのイメージが良い(75.9%) [前回9位：62.9%]
8 位	治安が良い(74.9%) [前回7位：70.3%]
9 位	病院など医療施設が充実している(71.5%) [前回8位：68.3%]
10 位	学校の教育環境が良い(58.4%) [前回10位：57.4%]
11 位	会社や工場など働く場所が多い(37.6%) [前回11位：33.5%]

② 各分野の施策

◆ 良くなった分野

- ・「こどもを核としたまちづくり」の推進により「子育て環境の充実」が、前回に引き続き高く評価されているものと考えられます。
- ・「地域福祉の推進」、「公園の整備・緑化の推進」は、全市民・転入者ともに、前回調査よりも高く評価されています。
- ・全市民対象において、「高齢者支援の充実」が、前回調査よりも高く評価されています。

順位	全市民対象（3,000人）	5年以内の転入者対象（2,000人）
1 位	子育て環境の充実（62.5%） [前回 1 位：59.9%]	子育て環境の充実（69.8%） [前回 1 位：72.1%]
2 位	本のまちの推進（17.4%） [前回 2 位：18.8%]	公園の整備・緑化の推進（13.3%） [前回 6 位：9.2%]
3 位	地域福祉の推進（12.8%） [前回 5 位：12.5%]	本のまちの推進（12.6%） [前回 2 位：20.2%]
4 位	高齢者支援の充実（12.0%） [前回12位：7.7%]	地域福祉の推進（11.3%） [前回 7 位：8.4%]
5 位	公園の整備・緑化の推進（10.6%） [前回15位：6.3%]	交通体系の構築（8.8%） [前回 4 位：12.4%]

◆ 今後推進すべき分野

- ・全市民対象において、「安全安心な水の安定供給」が前回調査よりも大きく増加しています。5年以内の転入者については、回答者の年齢構成の割合が反映され、「子育て環境の充実」が前回に続き1位となりました。

順位	全市民対象（3,000人）	5年以内の転入者対象（2,000人）
1位	高齢者支援の充実（26.6%） 〔前回1位：35.8%〕	子育て環境の充実（32.6%） 〔前回1位：27.0%〕
2位	安全安心な水の安定供給（21.4%） 〔前回19位：5.9%〕	学校教育の充実（23.4%） 〔前回5位：17.5%〕
3位	地域医療の充実（19.8%） 〔前回3位：18.5%〕	交通体系の構築（18.1%） 〔前回2位：25.4%〕
4位	交通体系の構築（16.6%） 〔前回2位：22.7%〕	地域医療の充実（18.0%） 〔前回3位：18.0%〕
5位	学校教育の充実（14.6%） 〔前回6位：13.2%〕	高齢者支援の充実（14.2%） 〔前回6位：17.4%〕

③ 転入者の状況（5年以内の転入者対象（2,000人）の結果）

- ・転入するきっかけとしては、就職・転職・転勤や結婚などの新たな生活を始める機会において、多くなっています。
- ・転入先を決める際に考慮した住宅環境としては、交通の利便性や、日常の買い物が便利であるといった生活上の利便性に加えて、子育て支援施策の充実が前回調査時よりも8.1ポイント高まっています。

順位	転入するきっかけ	転入先を決める際に考慮した住宅環境
1位	就職・転職・転勤のため（22.6%） 〔前回2位：22.9%〕	電車やバス、道路など交通の利便性が高い（41.7%） 〔前回1位：43.0%〕
2位	結婚のため（20.5%） 〔前回1位：23.3%〕	日常の買い物が便利である（31.2%） 〔前回2位：27.9%〕
3位	家族や親族と同居・近居するため（14.5%） 〔前回3位：13.1%〕	子育て支援に関する施策が充実している（26.3%） 〔前回5位：18.2%〕
4位	より良い住宅を求めて（8.7%） 〔前回4位：9.1%〕	勤務地や学校に近い（17.2%） 〔前回3位：18.6%〕
5位	より良い周辺環境を求めて（8.7%） 〔前回5位：6.3%〕	親や子どもの家に近い（15.7%） 〔前回4位：18.4%〕

3 施策展開の柱ごとの進捗状況

施策展開の柱1 豊かな自然と共生し、暮らしの質を高める

豊かな自然と共生し、自然と調和の取れたまちづくりを進めることで、より快適で持続可能な暮らしを実現します。そのため、脱炭素社会や循環型社会の実現に向けた取組を進めるほか、豊かな自然環境の保全と活用に取り組みます。

展開の方向1	脱炭素社会の実現
展開の方向2	循環型社会の実現
展開の方向3	自然環境の保全と活用

【KPIの実績値】

KPI	当初値	計画1年実績値	計画2年実績値	計画3年実績値	目標値	進捗度
温室効果ガス排出量(2013年度比)	11.9%の減(2018年)	17.7%の減(2019年)	8.5%の減(2020年)	15.0%の減(2021年)	30%の減(2025年)	○
ごみの排出量(1人1日当たり)	959g/人・日(2019年度)	867g/人・日(2022年度)	841g/人・日(2023年度)	2024年度値は秋頃	915g/人・日(2025年度)	◎
市民一人当たりの公園面積	7.14㎡/人(2021年4月1日)	7.14㎡/人(2023年4月1日)	7.33㎡/人(2024年4月1日)	7.33㎡/人(2025年4月1日)	7.35㎡/人(2026年4月1日)	○

【市民意識調査】

展開の方向	質問項目	2015年2月	2019年7月	2025年1月	傾向
1-1	「電気、ガス、ガソリンの使用量を減らすなど、普段から省エネ行動に取り組んでいる」と答えた人の割合	71.2%	77.4%	72.1%	↘
1-2	「ごみの減量のために、普段から意識して取り組んでいる」と答えた人の割合	—	※	65.6%	—
1-3	「緑や海、公園など自然が豊かである」と答えた人の割合	70.2%	78.5%	83.1%	↗

※(参考)ごみの減量やリサイクルについて関心があると答えた人の割合 69%(出典:2021年6月明石市実施 ごみに関する市民アンケート)

【あかしSDGs推進審議会の意見(2024年11月開催)】

- ・地球温暖化対策について、地球環境の変化のスピードに遅れないように、スピード感をもって取り組んでほしい。
- ・企業が太陽光パネルを積極的に整備することは、企業収益にも関係してくる。企業の環境対策が収益につながるよう、環境と経済の一体的な取組をもっと推進してほしい。
- ・ごみ対策について、指定ゴミ袋など具体的な施策を早急に実施する必要がある。また、市民啓発を強化し、全市民で取り組むよう促すことが重要である。
- ・新たな環境問題であるPFASについて、きちんと計画に位置付けて対策を進めてほしい。

【主な取組】

- ・脱炭素社会実現“ゼロ・カーボンあかし”に向けた取組（再生可能エネルギー活用の推進、省エネ・再エネ設備の導入促進、公共施設での照明設備のLED化の推進、公用車への電気自動車導入、公共施設への太陽光発電設備の導入）
- ・熱中症予防の取組（ひと涼みスポットの増設）
- ・新ごみ処理施設の整備・運営に向けた取組
- ・ごみの減量・再資源化の推進（ゼロ・ウェイストあかしの取組）
- ・ため池カルテの作成による地域資源の保全と活用
- ・豊かな海づくりの推進（全国豊かな海づくり大会の開催、ため池のかいぼり、下水処理場での栄養塩管理運転、漁業者と連携した海洋ごみの処分など）
- ・17 号池魚住みんな公園の整備
- ・公園を活用したプレーパークの実施
- ・ネイチャーポジティブの実現に向けた生物多様性保全の取組
- ・人にも動物にもやさしいまちづくりの推進
- ・大久保北部市有地の利活用

施策展開の柱 2

笑顔あふれる共生社会(インクルーシブ社会)をつくる

誰もが住み慣れた地域で自分らしく、社会の一員として生きがいを持って暮らし続けられる笑顔あふれる共生社会づくりを進めます。そのため、支え合う地域社会づくりのほか、多様性を認め合い、年齢、性別、国籍、障害などに関わらず自分らしく生きることができる社会づくりや、健康・長寿の推進に取り組めます。

展開の方向1	支え合う地域づくり
展開の方向2	自分らしく生きることができる社会づくり
展開の方向3	健康・長寿の推進

【KPIの実績値】

KPI	当初値	計画1年実績値	計画2年実績値	計画3年実績値	目標値	進捗度
市と協働のまちづくり協定締結した小学校区数	15 校区 (2020 年度)	17 校区 (2023 年度)	19 校区 (2024 年度)	22校区見込 (2025年度) 5月末頃確定予定	22 校区 (2025 年度)	◎
オレンジサポーター養成者数	13,428 人 (2020 年度 末現在)	21,033 人 (2022 年度 末現在)	23,323 人 (2023 年度 末現在)	26,123 人 (2024 年度 末現在)	30,000 人 (2025 年度 末現在)	○
平均寿命と健康寿命の差	男性:1.35 年 女性:3.04 年 (2020 年度)	男性:1.32 年 女性:2.93 年 (2021 年度)	男性:1.38 年 女性:2.96 年 (2022 年度)	2023年値 は 7 月以降	男性:1.35 年より縮小 女性:3.04 年より縮小 (2025 年度)	△

【市民意識調査】

展開の方向	質問項目	2015 年 2 月	2019 年 7 月	2025年 1 月	傾向
2-1	「支援が必要な高齢者や障害者などを地域で支え合う地域福祉活動が推進されている」と答えた人の割合	32.9%	42.5%	49.4%	↗
2-1	「普段の生活で何か困ったことがあったとき、相談できる人が地域にいる」と答えた人の割合	69.1%	56.4%	53.8%	↘
2-1	「1年程度の間で生涯学習活動をした」と答えた人の割合	12.4%	10.3%	10.5%	→
2-1	「1年程度の間で地域のまちづくり活動(自治会活動や校区まちづくり組織の活動、ボランティア活動など)に参加した」と答えた人の割合	29.6%	32.0%	19.0%	↘
2-2	「日常生活の中で、男女の固定的な役割分担意識(「男は仕事、女は家庭」という考えなど)を感じることがある」と答えた人の割合	—	55.6%	54.9%	→
2-2	「多様性を認め合える社会(障害者、外国人、LGBTQ+ など)になってきている」と答えた人の割合	—	—	57.1%	—
2-3	「日常生活の中で、健康のためによい生活習慣(食事や運動など)に取り組んでいる」と答えた人の割合	63.7%	67.6%	69.1%	↗
2-3	「1年程度の間でスポーツや運動(1回あたり 30 分程度以上)をした」と答えた人の割合	41.7%	44.1%	46.3%	↗

【あかしSDGs推進審議会の意見(2024年11月開催)】

- ・バリアフリー化は一定進んだが、今後も継続されるのか不安に感じている。
- ・障害者のためという視点ではなく、皆が住みやすいという視点でまちづくりを進めてほしい。
- ・ボランティアや地域を支えてきた人たちの高齢化が進んでおり、新しい世代の参画を促す必要がある。
- ・新しく転入してきた住民と既存住民とのつながりが希薄で交流が進んでおらず、コミュニティの再構築には、地域住民が共通の目標を持つことが重要である。
- ・フレイル対策について、早期発見と予防的支援の必要性が高く、具体的な支援策の展開を進めて欲しい。

【主な取組】

- | | |
|---------------------------------|----------------------------|
| ・ジェンダー平等の実現に向けた取組 | ・犯罪被害者等に対する支援の充実 |
| ・インクルーシブ施策の推進 | ・自殺対策の充実 |
| ・LGBTQ＋／SOGIE施策の推進 | ・DV被害等困難な問題を抱える女性への支援の充実 |
| ・ユニバーサルデザインのまちづくりの推進 | ・高齢者等のフレイル予防の強化 |
| ・認知症あんしんプロジェクトの推進 | ・介護・障害分野のDX推進・人材育成・施設整備の取組 |
| ・高齢者等安否確認事業の実施(地域見守りあんしんプロジェクト) | ・带状疱疹ワクチンの法定接種化と任意接種への一部助成 |
| ・旧優生保護法被害者への支援 | ・明石市ひきこもり相談センターの機能強化 |
| ・市民活動サポート事業のリニューアル | |

施策展開の柱3

こどもの育ちをまちのみんなで支える

将来のまちづくりの担い手であり、まちの未来であるこどもの育ちを社会全体で支えます。そのため、安心して子育てができる環境の整備のほか、一人ひとりに応じた質の高い教育の推進や、こどもの状況に応じた適切な支援の充実に取り組みます。

展開の方向1	安心して子育てができる環境の整備
展開の方向2	一人ひとりに応じた質の高い教育の推進
展開の方向3	こどもの状況に応じた適切な支援

【KPIの実績値】

KPI	当初値	計画1年 実績値	計画2年 実績値	計画3年 実績値	目標値	進捗度
出生数	2,692 人 (2020年)	2,596 人 (2022 年)	2,732 人 (2023年)	2,562 人 (2024 年)	3,000 人 (2025年)	△
授業がよくわかると答える 児童生徒の割合	78.1% (2016~2021年度の平均)	78.3% (2023年度の平均)	80.9% (2024年度の平均)	2025年度 の値は秋頃	85.0% (2025年度)	○
こどもの居場所・気づきの拠点 となるこども食堂の実施回数	541 回 (2019年度)	597 回 (2022 年度)	650回 (2023年度)	750回 (2024年度)	800 回 (2025年度)	○

【市民意識調査】

展開の 方向	質問項目	2015 年 2 月	2019 年 7 月	2025年 1 月	傾向
3-1	「子育て環境が良い」と答えた人の割合	49.4%	70.7%	78.3%	↗
3-2	「住んでいる地域の学校の教育環境が良い」と答えた人の割合	45.6%	57.3%	58.4%	↗
3-2	「市立学校における学習指導に対して満足している」と答えた人の割合	64.9%	76.5%	72.1%	↘
3-3	「こども食堂について知っている」と答えた人の割合	—	—	84.1%	—

【あかしSDGs推進審議会の意見(2024年11月開催)】

- ・今のまちづくりの方向性はとても良いので、引き続き強力で進めてほしい。
- ・子育て施策が成功し、明石の知名度も上昇して、結果として子育て世代の転入や乳幼児の増加につながっている。
- ・子どもが増えることは、まちに賑わいが生まれ、活性化にもつながっている。
- ・子どもの急激な増加に伴う待機児童の増加や、学校の施設不足といった課題について適切な対応を求めたい。
- ・今後は中高生にも焦点をあてた施策展開をしてほしい。

【主な取組】

- ・保育施設の待機児童対策
- ・放課後児童クラブの充実
- ・病児・病後児保育事業の拡充
- ・医療的ケア児への切れ目ない支援
- ・「明石独自の5つの無料化」の継続
- ・高校生世代への児童手当の支給
- ・妊娠・子育てまると寄り添い支援(産後ケアの充実、1か月児健康診査費用の助成、5歳児発達相談事業の充実)
- ・公立幼稚園における5歳児クラス30人学級の実施
- ・明石商業高等学校福祉科の創設
- ・中学校及び明石商業高等学校の体育館における空調設備の新設
- ・明石養護学校における教育環境の充実
- ・学校給食における地産地消の推進と有機食材の活用
- ・こどもの居場所(トロッコ)の増設
- ・フリースクール利用料助成制度の創設
- ・こども食堂への支援
- ・あかし里親 100%プロジェクト
- ・ヤングケアラーへの支援強化
- ・こども夢応援プロジェクト

施策展開の柱4

安全・安心を支える生活基盤を強化する

市民の暮らしや経済活動を支える、持続可能で安全・安心な生活基盤を整えます。そのため、防災・感染症対策の強化や、日常の安全・安心の更なる確保のほか、誰もが利用しやすく安全で強靱な都市基盤の整備に取り組みます。

展開の方向1	防災・感染症対策の強化
展開の方向2	日常の安全・安心の確保
展開の方向3	誰もが利用しやすく安全で強靱な都市基盤の整備

【KPIの実績値】

KPI	当初値	計画1年 実績値	計画2年 実績値	計画3年 実績値	目標値	進捗度
災害時要配慮者への個別支援計画数	25 件 (2020 年度)	76件 (2022年度)	197件 (2023年度)	339 件 (2024年度)	500 件 (2025 年度)	○
交通事故死傷者数	1,100 人 (2020 年)	1,096人 (2022年)	1,142 人 (2023年)	1,133 人 (2024 年)	800 人 (2025 年)	△
バリアフリー対策済の駅数	11 駅 (2020 年度)	12 駅 (2023 年度)	12 駅 (2024年度)	12駅見込 (2025年度)	13 駅 (2025 年度)	△

【市民意識調査】

展開の方向	質問項目	2015 年 2 月	2019 年 7 月	2025年 1 月	傾向
4-1	「住んでいる地域は、地震や台風、豪雨など自然災害が少ない」と答えた人の割合	81.8%	86.2%	87.6%	↗
4-1	「地震や風水害などの災害に備えて、行っている対策がある」と答えた人の割合	68.0%	69.8%	79.5%	↗
4-1	「市の作成した「ハザードマップ」を見たことがある」と答えた人の割合	35.5%	64.6%	71.1%	↗
4-2	「病院など医療施設が充実している」と答えた人の割合	59.7%	68.3%	71.5%	↗
4-2	「住んでいる地域は治安が良い」と答えた人の割合	59.7%	70.3%	74.9%	↗
4-3	「電車やバス、道路など交通の利便性が高い」と答えた人の割合	72.1%	75.8%	78.0%	↗

【あかしSDGs推進審議会の意見(2024年11月開催)】

- ・市の防災訓練は、実践的な内容で非常に良い。他の地域の方にも周知し、参加を促すことで、より効果的に防災力の強化につながるのではないかな。
- ・個別避難計画の策定には多くの人員と労力、時間がかかる。大きな地震がいつ起こるか分からないので、人員体制を強化し、取り組むべきである。
- ・近年凶悪な強盗事件等が多く発生しており、不安を感じている。プライバシーへの配慮もあるが、犯罪の捜査、抑止力という観点で防犯カメラを増設してほしい。

- ・闇バイトが話題となり、SNSを利用した犯罪を防ぐため、小中高校生へ情報リテラシー教育を行ったり、市の広報で啓発をすべきではないか。

【主な取組】

- | | |
|-------------------------------|------------------------------------|
| ・避難サポーターの養成及び個別避難計画の作成 | ・小児科診療所開設助成金の創設 |
| ・市役所新庁舎整備に向けた取組 | ・防犯カメラを活用した地域安全対策の充実 |
| ・市民ニーズに応じた多様な視点での避難所の充実 | ・鉄道施設のバリアフリー化(ホームドア設置、踏切の安全対策) |
| ・ハザードマップ全戸配付 | ・安全で利便性の高い幹線道路の整備(山手環状線・江井ヶ島松陰新田線) |
| ・新型コロナウイルス感染症対策 | ・上下水道事業の組織統合に向けた取組 |
| ・消防機能の強化(高機能消防指令センター、新中崎分署整備) | ・安全安心な水道水の供給に向けた水源の確保 |
| ・救急安心センター事業(#7119)の導入 | ・浸水対策の推進 |

施策展開の柱5

まちの魅力を高め、活力と交流を生み出す

まちの宝物を生かし、更に、新たな魅力を生み出して、定住・交流人口を増やすとともに、多様な働き方を実現できる雇用環境づくりや地域経済の循環を推進し、まちの元気につなげます。そのため、地域産業の振興のほか、文化の薫るまちの推進や、まちの魅力を生かした賑わいの創出に取り組みます。

展開の方向1	地域産業の振興
展開の方向2	豊かな心を育む文化・芸術の推進
展開の方向3	まちの魅力を生かした賑わいの創出

【KPIの実績値】

KPI	当初値	計画1年実績値	計画2年実績値	計画3年実績値	目標値	進捗度
市内総生産	11,779 億円 (2019 年度)	11,315 億円/ 2019年度比-3.9% (2020 年度)	11,069 億円/ 2019年度比-6% (2021 年)	12,322 億円/ 2019年度比+4.6% (2022 年)	2019 年度比+3.6% (2025 年度)	◎
図書館等での本の貸出冊数	3,005,919 冊 (2019 年度)	2,793,683 冊 (2022 年度)	2,747,078 冊 (2023 年度)	2,635,813 冊 (2024 年度)	320 万冊 (2025 年度)	△
天文科学館入館者数	116,711 人 (2019 年度)	104,630 人 (2022年度)	117,452 人 (2023 年度)	116,806 人 (2024 年度)	125,000 人 (2025 年度)	△

【市民意識調査】

展開の方向	質問項目	2015 年 2 月	2019 年 7 月	2025 年 1 月	傾向
5-1	「日常の買い物が便利である」と答えた人の割合	75.3%	80.7%	83.6%	↗
5-1	「海産物、野菜など食がおいしい」と答えた人の割合	75.5%	81.2%	80.5%	↘
5-1	「住んでいる地域に会社や工場など働く場所が多い」と答えた人の割合	22.2%	33.5%	37.6%	↗
5-1	「農水産物を購入する際に、明石産であることを意識している」と答えた人の割合	農産物 46.9% 水産物 57.0%	59.3%	53.4%	↘
5-2	「1年程度の間で文化芸術活動をした」と答えた人の割合	19.9%	27.7%	24.8%	↘

【あかしSDGs推進審議会の意見(2024年11月開催)】

- ・図書館は単に本を読むだけでなく、居場所にもなる点でとても大事である。身近な場所に大きくなくてもいいので、本がある環境を作ってほしい。
- ・本のまち明石というキーワードを知らない人が多いので、文教対策として市民に周知を行う必要がある。
- ・外国人観光客が、明石で観光や食事をしてもらえるように、アピールできる目玉を作っていく、そうしたインバウンド需要を取り込むことを期待する。
- ・市の持つ財産である大蔵海岸や自然環境を産業にも結び付け、全国や海外に発信して地域産業の進展にもつながるような施策を考えて欲しい。
- ・中小企業支援として、チャレンジスタートアップ制度をスタートしたが、日本、世界を代表する企業の育成につなげてもらいたい。

【主な取組】

- ・中小企業にかかる創業支援等の取組
- ・明石市中小企業奨学金返済支援事業の導入
- ・農業経営・新規就農者への支援
- ・豊かな海づくりの推進(再掲)
- ・工場の緑地面積率の緩和と生活環境との調和等に関する取組
- ・西明石地区活性化に向けた取組
- ・大久保駅周辺市有地の利活用に向けた取組
- ・本のまち明石の推進
- ・天文科学館の魅力向上に向けた取組(プラネタリウム100周年記念事業)
- ・シティセールス(明石の魅力発信)の取組
- ・地域資源を活かした文化観光施策の充実

計画の推進

効率的・効果的な行政運営

推進計画における行政運営の基本姿勢に基づき、市民に最も身近な基礎自治体として、市民ニーズを的確に捉え、市民主体のまちづくりの下、新たな生活様式への転換などにも柔軟に対応しつつ、災害や感染症など非常時にも備えながら、重点的な施策を着実に推進するとともに、人材・財源などの限られた行政資源を自らの判断と責任で、真に必要な性の高い施策に重点的に配分して実施できるよう、持続可能な行政運営に取り組みます。

① SDGsの更なる推進

② 持続可能で自立した行政経営(持続可能な公共サービス体制の実現、健全財政の推進)

【参考指標：市民意識調査】

質問項目	2015年 2月	2019年 7月	2025年 1月	傾向
「SDGs(持続可能な開発目標)について内容まで知っている」と答えた人の割合	—	—	64.2%※	—
「SDGsに貢献できるような取組をしている」と答えた人の割合	—	—	57.5%※	—
「「広報あかし」をほぼ毎回読む」と答えた人の割合	55.1%	58.9%	53.7%	↘
「市の計画に意見を出したり、市の取組に参加して活動したい」と答えた人の割合	43.1%	46.4%	42.4%	↘
「声が市に届けやすくなったと感じる」と答えた人の割合	—	—	18.3%	—
「市の窓口サービスについて、適切で気持ちよい対応がなされていると感じる」と答えた人の割合	48.5%	62.3%	62.4%	→

※(参考)SDGs認知率:名称も内容も知っていると答えた人の割合 44%

SDGs目標達成のために貢献したいと答えた人の割合 45%

(出典:2024年6月 CrossMarketing 実施 全国インターネット調査 SDGsに関する調査(認知・興味関心編、評価・行動編))

【あかしSDGs推進審議会の意見(2024年11月開催)】

- ・学校教育において、SDGsに関する理解を深め、子ども達の意識変化につなげていくことが重要である。
- ・タウンミーティングの意見が市の施策にどのように反映されたのか、市民に分かるよう情報提供することが重要である。
- ・「対話と共創」という取組の進め方に加えて、その先にある目標・ゴールを明確に示してほしい。

【主な事業】

- ・市民との対話によるまちづくりの推進(タウンミーティング“まるちゃんカフェ”
ファシリテーター養成講座)
- ・産官学との共創によるまちづくりの推進(連携協定の締結、民間提案制度)
- ・SDGsの推進(SDGsパートナーズ、SDGs推進助成金)
- ・自治体DX(デジタル改革)の推進
- ・各種証明書コンビニ交付の導入
- ・市ホームページの全面リニューアル
- ・みんなでつくる財政白書の策定